

プロジェクトで取り組んだ課題

- ①被災地内での木質災害廃棄物の利用提案：秋田県内で実証実験・施工を行ってきた技術により震災で発生した木質災害廃棄物や地場産材をチップ化・歩行路の舗装施工。
- ②木質災害廃棄物と地域木材利用による地域再生を定量表示：ライフサイクルアセスメント（LCA）の実施。
- ③技術移転と課題の把握：今後の復興事業を視野に地域の建設業者や住民の参加呼びかけと木質災害廃棄物や地場産材を活用した地域再生に対する評価、潜在的ニーズ等を把握。

プロジェクトの結果、提言内容

木質災害廃棄物を資源として活用すべき：①仮設商店街の環境改善に津波による塩害木（直径 12cm、長さ 4m の丸太 113 本分相当）の活用を実証 ②被災地内での木材チップの製造や輸送に伴う CO2 排出は非常に小さい ③施工や撤去容易性を考慮した方法なら初心者でも対応可能（＝被災地の復旧スピードの向上が期待できる）

町内外への成果の紹介、情報提供が重要：①当該地で前例や情報が少なければその有効性が認識されても事業とされにくい ②災害時下での新たなルールづくりは困難

プロジェクトの結果（≒提言）は、何を変えることを狙って、誰に向けて発信するか

被災地外への搬出、埋め立てもしくは焼却処理しかない現状の木質災害廃棄物の処理方法への認識を変えるため、特に木材資源を有し、西日本大震災による甚大な被害が懸念される地域において防災及び木材や地域資源を活用したまちづくりに取り組む行政担当者や NPO 等に向けて情報発信をしていきたい。